

《令和 3 年度 千葉市発達障害者支援センター運営事業経過報告》

前年度に引き続き、相談業務、講師派遣、サロン、子育てアシスト(年中児集団行動観察)、ペアレント・トレーニング、普及啓発を行っている。

1. 相談業務

(1)相談件数(R3.12.31 現在)

- 実支援人数 811 人
- 延支援件数 3,245 件

(2)相談支援・発達支援状況

相談支援・発達支援は日常生活(コミュニケーション、行動面、学校や所属機関でのこと等)の様々な相談に応じている。また必要に応じて所属機関(保育所、幼稚園、学校、福祉施設、医療機関等)と連携・協働し、本人や家族が安心して過ごせる環境を作るための支援も行っている。

18 歳以上が全体の 54.7%であり、成人期以降の相談が半数を超えている。家族・本人からの相談が中心であり、家族の相談は情報提供や生活における困難さへの具体的なアドバイスが中心であるが、本人の相談はカウンセリング的な要素の強いものが多い。

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により趣味や余暇活動が思うようにできず、心のバランスが崩れ生活や仕事に支障をきたしたケースや、本人の障害受容が進まないことで、継続的な医療やサービスの利用に繋がらず、家族の負担が大きくなっているケースが増加している。今年度は特に障害者基幹相談支援センターなどの地域の支援機関と連携を密にし、本人や家族の心的負担の軽減に努めた。相談者を取り巻く環境の変化と共に、支援者の対応力が求められてくると考える。

18 歳未満の全相談のうち乳幼児期が 20.8%、小学生が 35.9%、中学生が 20.8%、高校生が 22.4%であった。小学生から中学生の相談件数は例年と同程度だが、乳幼児期の相談件数は減少しており、一方で高校生年代の相談件数は増加している。乳幼児期の相談は、既に診断や療育に繋がっているケースだけでなく、診断は受けていないものの子どもの気になる行動が目立ち、幼稚園・保育所(園)から相談を勧められたり、保護者自身が心配になり相談されるといったケースもあった。昨年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、すくすくサポートや講師派遣(実技中心)の実施が制限されてしまったが今年度は件数が増加しており、こういった別の事業を利用される相談者の増加に伴い相談件数が減少したのではないかと考えられる。

学齢期以降、特に小学生・中学生では、新型コロナウイルス感染症感染拡大による学校生活での制限や休校を経て不登校になったり、学習面、対人面での困難さに関する相談が多かった。高校生年代では、不登校に加えて引きこもりのケースが多く、きょうだいや親子間のトラブルといった家庭内での事柄に関する相談が増加している。

(3)相談支援・就労支援状況

就労準備支援では相談者のニーズやスキルの把握から個々の障害特性の理解を深めることに重点を置き支援を行っている。職業のマッチングと同等に、相談者が心身の健康や生活リズムの安定が継続的な就労につながると気付くことで、二次障害の治療や予防、日常生活課題に取り組めるようサポートしている。

就職活動支援では千葉障害者職業センターやハローワーク、千葉障害者就業支援キャリアセンター、就労移行支援事業所等の関係機関と連携しながら、相談者に合った就職先が見つかるよう支援している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により就職活動を控えていた相談者が就職活動を再開し、早く就職したいと焦るケースも少なくない。継続雇用を意識した就職活動の必要性を伝え、千葉障害者職業センターの準備支援や、企業の体験実習等を通じて自己の課題整理ができるよう支援した。企業側、就職者側双方が納得できる就職となるよう支援した。

今年度 12 月時点の新規就職者数は 12 名で内 5 名が障害者雇用枠での採用であった。昨年度より 4 名増えており、徐々にではあるが雇用側の新型コロナウイルス感染症感染拡大における就業環境が整ってきていることが伺える。就職先は工場(製造)、独立行政法人(事務補助)、倉庫(ピッキング作業)、郵便局(仕分け業務)、行政機関(事務補助)等であった。

2. 講師派遣

(1)外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)

幼稚園・保育所(園)や各種学校、福祉施設、企業等を訪問し、機関からの各種の相談に応じている。相談の内容としては障害のある、または障害の疑われる者への対応や指導方法の助言が中心である。行動観察を行う他、関係者より日頃の様子等について聞き取りを行い、対応方法や支援方針について協議を行っている。対象者に関することだけでなく、周囲の環境調整等についても必要に応じて助言を行い、各機関の支援機能の向上を目指している。

すくすくサポートや子育てアシスト等、他の事業も併用されている幼稚園・保育所(園)・認定こども園等から依頼を受けるケースが多い。また講師派遣のみでのつながりであっても、半年に 1 回など定期的に派遣を希望される例が増加している。

(2)子育てアシスト(年中児集団行動観察)

※外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)の一環として実施

乳幼児健診では育ちにくさに気付かれにくい子どもや関わりの難しい子どもに対して、適切な関与を共に考えていけるように地域での支援機能の向上を目指すことを目的としている。子どもの行動を観察し、気になる行動の原因を探索、支援を考えることによって園職員の行動理解と支援技術を促進している。

昨年度より目的を鑑み、園内研修に重点を置いた形式(従来の LITE)での実施を基本としたが、園からの希望があれば、保護者への質問票配布・返信を行う形式(従来の BASIC)も選択できる形とした。募集は幼稚園・保育所(園)・認定こども園を対象とし、文書配布により行った。本年度も年間 12 回の実施を予定していたが、内 4 回については新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響から中止となり、計 8 園での実施となった。

【実施園】

- ・保育園 3 区(稲毛、中央、緑) 4 園
- ・保育所 1 区(若葉) 2 園
- ・認定こども園 2 区(中央、花見川) 2 園

※新型コロナウイルス感染症感染拡大等の理由による実施中止園：幼稚園 1 園(若葉)、保育園 1 園(花見川)、保育所 1 園(中央)、認定こども園 1 園(若葉)

【内 容】

- ・集団場面での行動観察:幼稚園での集団活動場面の様子を観察
- ・職員と意見交換:気になる子への対応方法などを協議
- ・各園職員へアンケート

※BASIC 形式での実施の場合、以下の項目を追加して行う

- ・保護者への事前説明:文書による趣旨説明
- ・保護者への事前調査:ご家庭で困っていること、気になることの確認
- ・保護者への報告:各児への所見を支援センターで作成、園から報告
- ・ミニ講座:保護者を対象に趣旨説明と子育てミニ講座を実施(園が希望した場合のみ)

【協力関係機関】

- ・養護教育センター
- ・各区保健福祉センター
- ・千葉大学教育学部
- ・千葉市桜木園
- ・千葉市療育センター 療育相談所 / 相談支援事業所ぱれっと

【実施結果】

	形 式	人 数	障害の 診断あり※1	相談機関等 を勧める※2	対応方法 アドバイス※3
稲 毛 区 A 園	LITE	20	1	1	11
若 葉 区 B 園	LITE	14	4	4	9
中 央 区 C 園	LITE	6	0	2	5
中 央 区 D 園	LITE	16	1	5	11
花 見 川 区 E 園	LITE	中止			
中 央 区 F 園	LITE	中止			
若 葉 区 G 園	LITE	中止			
若 葉 区 H 園	LITE	中止			
緑 区 I 園	LITE	8	0	3	8
中 央 区 J 園	LITE	72	5	5	30
若 葉 区 K 園	LITE	30	4	3	21
花 見 川 区 L 園	LITE	22	0	7	21

※1「障害の診断あり」は、疑いも含む。

※2「相談機関等を勧める」は、相談継続中の場合は除く。

現時点での勧めではなく、経過観察後の様子によって勧める場合も含む。

※3「対応方法アドバイス」は、子育て全般に関しても行っている。

【考察】

近年、比較的新しく設置された保育園や、本事業利用未経験の施設からの応募が増加傾向にある。子どもの発達に関する保育者の気掛かりな点や関わり方について、関係機関を交えながら施設内で話し合えるという利点があることや、保護者同意を要しないという利用のしやすさが、増加の理由として考えられる。本年度は実施した全ての施設が、園内研修に重点を置いた形式(従来のLTE)を希望していた。意見交換では、子どもへの関わり方だけでなく、「保護者との信頼関係の構築が難しい」「保護者との間で、子どもの共通理解を得ていくことが困難」といった事例が多く上がる。子育てアシストで子どもや保護者への支援の道筋を明らかにした上で、実施後も講師派遣(実技中心)などを通じて、施設へのコンサルテーション的役割を求められることが少なくない。継続的な間接支援を行うことで、施設と保護者間の共通理解が深まり、すくすくサポートや専門機関への相談へと至るケースも増えてきている。

(3)外部から講師派遣依頼を受けた研修(講義中心)

日付	名称	人数	内容
R03/04/28	特別支援教育事例研究会	25	場所:植草学園大学附属弁天こども園 内容:「事例研究～インシデントプロセス法による事例研究～」 対象:幼稚園、認定こども園教諭 講師:巡回相談員 田宮 真理子
R03/07/09	施設職員研修	12	場所:第二幕張海浜保育園 内容:「発達障害研修 基礎知識と気になる子への理解と対応」 対象:保育士 講師:発達支援員 斎藤 幸佳、高橋 あかね
R03/07/21	施設職員研修	10	場所:にじのいる保育園 内容:「気になる子への理解と対応・保護者支援について」 対象:保育士 講師:発達支援員 斎藤 幸佳、高橋 あかね
R03/07/30	特別支援教育研修会	100	場所:千葉市幼稚園協会(ZOOM開催) 内容:「気になる子への理解と対応・保護者支援について」 対象:幼稚園教諭、保育士 講師:巡回相談員 田宮 真理子
R03/08/04	千葉経済大学キャリアセンター就職支援会議	12	場所:千葉経済大学 内容:「発達障害グレーゾーンについて」 対象:千葉経済大学キャリアセンター、ハローワーク千葉、千葉障害者職業センター職員 講師:就労支援員 川崎 正崇
R03/08/24	千葉市養護教育センター専門研修	50	場所:千葉市養護教育センター(書面開催) 内容:「発達障害の支援～中学卒業から就職まで～」 対象:小・中・特別支援学校等教員 講師:所長(相談支援員) 仲村 美緒
R03/09/02	障がい・難病・内部疾患等がある学生向けキャリアサポートセミナー	4	場所:淑徳大学 内容:「キャリアサポートセミナー実践編 自己理解と他者への伝え方」 対象:淑徳大学生 講師:就労支援員 川崎 正崇
R03/09/10	施設職員研修	15	場所:はぐくみの杜君津赤ちゃんの家(ZOOM開催) 内容:「発達が気になる子の支援と対応」 対象:乳児院職員 講師:発達支援員 斎藤 幸佳
R03/09/14	ワークシステムサポートプログラム	4	場所:障害者職業総合センター 内容:「発達障害の強みを活かして生活する、働く」 対象:ワークシステムサポートプログラム受講者 講師:就労支援員 川崎 正崇
R03/10/01	和洋女子大学	15	場所:和洋女子大学 内容:発達障害児者への理解と支援 対象:学生 講師:発達支援員 斎藤幸佳、高橋あかね、巡回相談員 田宮真理
R03/10/26	発達障害の理解と対応	9	場所:美浜区障害者基幹相談支援センター 内容:「発達障害の理解と対応」 対象:美浜区障害者基幹相談支援センター、地域活動支援センターディアフレンズ真砂職員 講師:相談支援員 奥田幸子、仲村美緒
R03/10/27	特別支援教育事例研究会	25	場所:植草学園大学附属弁天こども園 内容:「事例研究～インシデントプロセス法による事例研究～」 対象:幼稚園、認定こども園教諭 講師:巡回相談員 田宮 真理子
R03/11/02	施設職員研修	7	場所:かるがも保育園鎌取園 内容:「配慮が必要な児童への対応方法」 対象:保育士 講師:発達支援員 高橋あかね、斎藤幸佳

R03/11/16	施設職員研修	17	場所:鎌取コミュニティセンター 内容:「気になる子への理解と支援」 対象:千葉市保育協議会緑区会 講師:巡回相談員 谷口 清生、田宮 真理子
R03/12/06	障害児保育研修	200	場所:千葉市役所正庁 内容:「インクルーシブ保育における保育実践について～気になる子への対応～」 対象:保育所、保育園、幼稚園、認定こども園職員 講師:所長(相談支援員)仲村美緒
R03/12/15	ワークシステムサポートプログラム	6	場所:障害者職業総合センター 内容:「発達障害の強みを活かして生活する、働く」 対象:ワークシステムサポートプログラム受講者 講師:就労支援員 川崎 正崇
R03/12/17	施設職員研修	24	場所:かがやきのまち 新千葉教室 内容:「発達障害基礎知識」 対象:放課後等デイサービス職員 講師:発達支援員 高橋 あかね、巡回相談員 田宮 真理子

3. 普及啓発・研修

講演会や研修会により、発達障害に関する理解の普及啓発を図るものである。一般市民や関係者を対象とした啓発イベント・研修会を開催し、発達障害への理解浸透を図っている。

①主催講演会

日付	名称	人数	内容
R03/09/18	第1回発達障害講座 「障害児保育《基礎編》」	404	内容:「障害児保育《基礎編》～特性のある子が輝く支援～」 講師:千葉大学特命教授 富田 久枝先生 会場:オンデマンド配信 9/18～10/10 (23日間)
R03/11/12	第2回発達障害講座 「障害児保育《応用編》」	299	内容:「障害児保育《応用編》～特性のある子が輝く支援～」 講師:千葉大学特命教授 富田 久枝先生 会場:オンデマンド配信 11/12～12/5 (24日間)

②地域住民等に対する普及啓発

日付	概略	内容
R03/11/13	第13回世界自閉症啓発デーinちば ～みんな大切な仲間です～	場所:千葉市生涯学習センター アトリウムガーデン 内容:自閉症の方たちの作品展示、千葉県自閉症協会や各発達障害者支援センターの案内、パネル展示など

③関係施設・関係機関等の連携

日付	協議会名称	開催地	内容
R03/06/01	特別支援連携協議会	千葉市養護教育センター	(1)開会 (2)主催者挨拶 (3)出席者紹介 (4)報告・協議 ①特別支援連携協議会について ②令和2年度第2回特別支援連携協議会報告(書面開催) ③令和2年度第3回実務担当者会議報告(書面開催) ④今年度の実務担当者会議の取組 ⑤その他 (5)諸連絡 (6)閉会
R03/06/02	千葉市子ども・若者支援協議会代表者会議	書面開催	(1)千葉市子ども・若者支援協議会 組織 (2)令和2年度 事業報告 (3)令和3年度 事業計画
R03/06/08	第2回 千葉市地域意見交換会	千葉障害者就業支援キャリアセンター及びWeb会議	(1)グループワーク (2)求人案内 (3)連絡事項及び、情報共有
R03/06/29	千葉公共職業安定所管内障害者雇用連絡会議	千葉公共職業安定所	(1)開会 (2)千葉公共職業安定所長あいさつ (3)議題 ①職業紹介状況及び関係機関との連携について ②障害者雇用率制度について ③障害者虐待防止、障害者差別の禁止及び合理的配慮について (4)①情報交換・意見交換 (5)閉会

R03/07/14	第1回障害者雇用支援連絡協議会	千葉障害者職業センター	(1)開会 (2)今年度の取組方針移について (3)実践報告「ハローワークによる障害学生への支援の現状」 (4)大学への支援(試行実施)について (5)情報交換 (6)閉会
R03/08/02	第17回千葉市地域自立支援協議会全体会	書面開催	(1)報告事項 ①令和2年度相談支援体制の見直しについて ②千葉市地域自立支援協議会令和2年度活動報告書について ③千葉市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業について ④千葉市の障害福祉関係統計資料 (2)協議事項 ①令和2年度障害者基幹相談支援センターの運営状況について ②障害者基幹相談支援センター運営方針(案)について ③令和2年度地域生活支援拠点事業の運営状況について ④日中サービス支援型グループホームについて
R03/12/10	第5回千葉市地域意見交換会	千葉障害者就業支援キャリアセンター及びWeb会議	(1)グループワーク「障害者本人に関わる関係機関の役割」 (2)求人案内 (3)連絡事項及び、情報共有

4. サロン「しえるろっく」

発達障害の診断を受けており、診断名を告知されている 18 歳以上(高校生を除く)の方を対象とした茶話会を実施している。日常的な話題を中心としたコミュニケーションや、アナログゲーム等の活動を通じて自分を表現する力、他者を理解する力の向上を目的としている。参加人数は毎回 4 名程度である。全 8 回の開催を予定しており 12 月末で 6 回終了している。

今年度は、昨年度好評だったボッチャの競技体験や所外での散策活動の他に、新たに雑誌の切り抜きを使ったコラージュ制作や、相談者から募った希望の中からディベートゲームを実施した。コロナ感染者拡大の影響から公共交通機関の移動を控え、参加者の少ない回もあったが、その分意見交換の頻度が増えたり、共通の話題で話が盛り上がったりと、少人数ならではの会話の拡がり方を楽しむことができていた。

5.ペアレント・トレーニング

発達障害児はその特性から叱責されることが多く、自信や意欲を失ってしまうことがある。ペアレント・トレーニングは発達障害のある子どもの行動を理解し、行動療法に基づく効果的な対処法を体験的に学び、よりよい親子関係づくりと子どもの適応行動の増加を目的としている。ASD もしくは ADHD と診断された子どもを持つ保護者を対象とし、合同でグループを編成した。

○プログラム

【参加者】

・ASD もしくは ADHD と診断された子どもの保護者 6 名(未就学児 3 名、小学生 3 名)

【内 容】

セッション1	オリエンテーション 子どもの行動を3種類に分けてみよう
セッション2	肯定的な注目を与えよう ほめ方のコツ スペシャルタイム
セッション3	好ましくない行動を減らすー無視とほめるの組み合わせー
セッション4	子どもの協力を増やす方法①ー効果的な指示の出し方①ー
セッション5	子どもの協力を増やす方法②ー効果的な指示の出し方②ー
セッション6	子どもの協力を増やす方法③ーよりよい行動のためのチャートー
セッション7	制限を設けるー警告とペナルティの与え方ー
セッション8	これまでのふりかえり

【考 察】

本年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策に配慮し、定員を 6 名として実施した。

保護者からは、宿題を通して子どもの好ましい行動を探しほめることに取り組み、保護者自身の関わりが変わることで親子関係が改善していったと報告を受けた。グループは終始穏やかな雰囲気意見交換が行われ、終了後の感想では、「子どもが叱られるのではなく褒められるようになったことで自信を持てるようになったと思う」「グループで他の人の話を聞くことができ、励みになった、成功例を参考にできた」といった肯定的な意見が多く挙げられた。

○リーダー養成研修

【参加者】

・基礎研修 児童発達支援事業者、放課後等デイサービス事業者 6名

【内 容】

・基礎研修 講義形式で各セッションの概略を説明

【考 察】

本年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大への対策の為、保護者グループの見学等で人の密集を避けられない実務研修は中止にし、基礎研修も定員30名から10名へ、大幅に人数を減らしての実施となった。32名の応募があり、本年度は募集の段階ペアレント・トレーニング実施予定の有無を確認し、実施予定のある3施設を優先的に参加してもらった。事業所での実施状況については、1施設は新型コロナウイルス感染症感染拡大により未実施、2施設については事業所独自にアレンジしたプログラムを個別で実施しているとの報告を受けている。参加者の受講動機の多くが、日常の子どもとの関りに活かしたいというものであった。定員を大きく上回る応募があったことから、日々の支援においてペアレント・トレーニングへの興味関心は高いことが伺える。先行き見えない状況において学びの場も制限されていることも鑑み、次年度は実施方法についての検討が必要である。